

令和7年度 第2回西成特区構想エリアマネジメント協議会
こども・子育て専門部会 議事要旨

1 日 時 令和8年3月2日(月) 午前10時から午後0時まで

2 場 所 西成区役所4階 4-8会議室

3 出席者

【有識者】

村上委員(大阪大学)、水内委員(大阪公立大学)、白波瀬委員(関西学院大学)

【地域メンバー】

山本委員(区PTA協議会会長)、荘保委員(わが町にしなり子育てネット代表)、
小林委員(NPO法人釜ヶ崎支援機構事務局長)、中村委員(天下茶屋中学校長)

【大阪市】

中山担当係長(こども青少年局企画課)

本間指導主事(教育委員会事務局)、佐野指導主事(教育委員会事務局)

【西成区】

五條子育て支援担当課長

4 議事要旨

◎今後のこども・子育て関連施策の展開についての意見交換

【外国につながる児童生徒への支援について】

(有識者) 西成区の人口動態について、北西部の外国人人口は約4,700人で、北西部全人口との比率は27.3%、うち全人口との比率で高い年代は、0歳から4歳が43.3%、20歳から24歳が67.6%である。西成区全域の外国人人口の比率は、約16.0%であり、年々日本人人口は減少しているが、外国人人口の増加によりこの6年間人口水準を保ったままとなっている。

この度、大阪公立大学で、西成区の外国人人口動態について、学校を通じて外国人児童生徒の保護者に対しアンケート調査を実施し分析を行った。

調査内容は、令和7年12月11日から西成区の小中学校(鶴見橋中、梅南中、長橋小、まつば小、北津守小、新今宮小)の全外国人の保護者196世帯にアンケートを配布し、50世帯(回答率約26%)から回答があった。令和8年1月4日を回答期限としていたが、回答率30%を目指し現在延長して実施している。

アンケート結果からは、小中高学生の児童生徒数では中国籍の割合が高いが、0歳から5

歳ではベトナム籍が一番多く、外国籍の人数も小中校学生に比べて2倍の割合となっている。

保護者の情報として比率が高いのは、在留資格が「経営・管理」「技人国」で、年齢は40歳代前後、来日歴は5年から10年であった。

子ども（第一子）は、日本語は大体話せており、中高、専門学校へ通っている状況である、との回答が多かった。

子どもの将来については、約9割は大学に行つて欲しいという回答であり、日本での教育で定住していく感じが見られた。

西成区のイメージについては、通勤に便利で交通の便が良いというのが圧倒的に多く、物価や土地の価格が安いという意見も見られた。

西成区に住むことの満足度は5段階評価で、「3」以上と回答した世帯が8割以上で、高い評価であった。

今後も住み続けるかという質問については、今後も住み続けるが約3割、当分の間住むが約5割、住みたくないは約2割となっており、定住されているのが分かる。

これらの調査項目について、日本で初めて実施する内容であると考えており、当調査結果を重要視し、今後の西成区の検証材料として活用していきたい。

（有識者）浜松市の調査では、90年代以降日系ブラジル人が急激に増えて、家族での滞在が多く、第2世代の不就学が大きな社会問題であった。高校に進学しないので、不安定就労に結びつくということとなり、うまく社会に順応できない状況になっていたが、それをできるだけ早期に防ぐために学校を通じて不就学ゼロ運動を行っており、現在は大分改善されている。

今回、この西成区のアンケート結果を見ると、調査に回答する時点で既に学校との繋がり結びつきがある層の回答で、しんどい層があまり回答していない可能性があると思った。この結果だけを見て、西成区の世帯の特徴を一般化するのは少し難しいと思うので、もっとしんどい層に対してどうリーチしていくのか、合わせて検討する必要がある。

（有識者）以前、神奈川の工業地帯で子どもの居場所や、保育園を視察する機会があった。その地域では、カンボジア難民やベトナム難民、ブラジル系の第2世代が、子どもの居場所へ通つてケースが多く、第2世代だから日本語は話せるものの、コミュニティは完全に日本の社会に定着してゐるわけではなく、うまく繋がっていない状況であった。15年後には西成区も日系外国人の第2世代の居住者が増加する見込みが高くなると思われるため、同じような状況になる可能性もある。

（有識者）各小中学校のアンケート調査時には、教頭先生等にヒアリングを数回行ったが、数字には出てこない色々な事例を聞いている。今後、結果の数字を含め、課題について検討

を行っていく。

【ヤングケアラーについて】

・(有識者) ヤングケアラーについては、研修や出前講座を積極的に活用し、学校において子ども自身が「守られるべき当然の権利」に気付くきっかけを設けることが大切ということだが、前回までの意見交換で、学校でワークショップ授業というところまで一気に、というのは難しいという話になっていた。

・(地域メンバー) まずは学校の先生やヘルパー、社会福祉関係の人を対象にした研修会・寸劇を行い、先生方に正しい理解をしていただいたうえで、受講者から校内へ共有していきたい。研修会・寸劇については今後、校長会で依頼するところから進めていく。西成区は地域資源が豊富なので、もしヤングケアラーだって気づいた子どもも、サポートできる場所が沢山ある地域なので、連携がより一層できると良いと感じている。

【その他】

・朝のこども食堂について、開催状況報告。

・令和8年度のスケジュールについて説明。

次回の開催については6月頃を予定。

以上